めいろうこどもえん　２月園だより

２０２４年度　年主題〈さあ、漕ぎ出そう　奏でよう〉

0･1･2歳児２月主題「みんなだいすき　そうなんだ」

月のねがい

◎保育者の祈る姿を見て一緒に祈ろうとする(0)
◎身近な友だちの存在を感じ、保育者や友だちとやりとりしながら、模倣遊びを楽しむ(0)
◎友だちと関わる中でいろいろな思いに触れ考える(1.2)
◎自分の言葉で神様とお話しする（1.2)
◎一人一人の育ちを捉えて、その子の今を大切にする(1.2)

3･4･5歳児２月主題　「響き合う」

月のねがい

◎祈りが習慣となり、自分や家族のことを祈ろうとする（3)
◎気の合う友だちと遊び、気持ちが通じる楽しさを感じる（3)
◎寒さの中にあっても、草木が春の準備をしていることに気付く（3)
◎イエス様のつながりを一人一人が感じて過ごす(4.5)
◎お互いに存在を認め合い、相談しながら時間をかけて思いを実現していく過程を楽しむ（4.5)
◎冬の自然の中に次の季節への備えを知る（4.5)

今月の聖句　「わたしは弱いときにこそ強いからです」　Ⅱコリント書12:10

「困った時の神頼み」という言い方があります。困った時だけ神さまに頼るなんて都合が良過ぎると思う反面、見栄を張らずに神さまに祈れる人は、それ故に、上からの力を頂けるという側面もあります。人は神さまに、ああして欲しい、こうして欲しい、と願いをぶつけます。けれども、その祈りの全てが聴かれるかというと、必ずしもそうではありません。

明治を代表するキリスト教指導者・内村鑑三は、「聴かれない祈り」という文章を残しています。彼の娘ルツ子は18歳で亡くなりました。内村は娘の病気が治るよう必死に祈りましたが、祈り虚しく、ルツ子は亡くなりました。内村は、何故祈りが聴かれなかったのかと揺らぎました。しかし、ついに次のように告白するのです。「神は私の願いを斥けられて、私と私の愛する者を恵まれたことが分かった。死んだ私の娘は復活した。彼女の生存は、前よりもさらに確実なものとなった。天国の門は私のために開かれた。彼女の形体(かたち)が見えなくなって、私は彼女の霊を私の霊に懐くようになった。今や彼女は永久に私の娘である。誰も彼女を私から奪い取ることは出来ない」。そして語ります。「私に聴かれない祈祷があるのは、神が特に私を愛して下さる最も確かな証拠である。幸いな者とは、神にことごとくその祈祷を聴かれた者ではない。その最も願うことを聴かれない者である」。この経験を通して、内村は自らの力が及ばないところにこそ、神の力が働くことを知ったのです。自らの限界、弱点を知っている人、それを認められる人は、強いのです。「わたしは弱いときにこそ強い」と聖書が語る通りです。　　協力牧師　池田基宣

２月の行事予定

４日（火）	おゆうぎ会予行・弁当日
５日（水）	２月誕生会、入学説明会
８日（土）	2,3月もも・あじさい誕生会
15日（土）	おゆうぎ会
17日（月）	振休
18日（火）	冬の一日遠足　**※弁当日**
27日（木）	参観日(たんぽぽ・こすもす)
28日（金）	参観日(あじさい･すみれ)

３月の行事予定

４日（火）	３月誕生会弁当日
５日（水）	監査・役員会(11:00~)
８日（土）	卒園式
11日（火）	お別れ会・バイキング
18日（火）	絵本の会ラスト公演
19日（水）	修了式（1号午前保育）
29・31日	新学期準備のため休園

持久走大会

募金のお礼とお知らせ

先般よりお願いしておりましたお年玉募金が、**27.130円**集まりました。日本赤十字社を通して、能登半島地震に係る災害義援金として石川県に送金させていただきました。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

お知らせ　たんぽぽ組担任の渡邊美和が出産のため2/17より暫くお休みをいただきます。ご迷惑をお掛けしますが、何卒宜しくお願い致します。

保育参観

お別れ遠足

キリスト教保育の原点を学び・・

今年も暖かいお正月でしたね。昨年の能登半島地震が頭をよぎります。今もなお元の生活に戻れず、大変な思いをされている方々のことを思うと、何事もなく新年を迎えられたことにありがたい気持ちになります。

さて、先日私はキリスト教保育連盟の主任研修会に参加してきました。キリスト教保育の歴史を学んだり、同じ立場の主任の先生方と討議をしたりと、充実した時間を過ごすことが出来ました。「ありのままの自分を好きになること」「みんなに愛されていること」「遊びを中心とする保育」がキリスト教保育の中心です。今は、子どもたちには難しいことかもしれません。これから生きていく上で、大きな壁にぶつかった時に、自ら這い上がれる力を育てることに繋がっていることを学びました。私が育った頃に比べると、明らかにこれからは大変な世界になるのでは･･と思います。そんな激動の時代だからこそ、日々の保育の中でありのままの姿でいいんだということ、目には見えない非認知能力を育てていくことを大切にしていきたいと改めて思うことでした。そして、何より、保育者が保育を楽しむこと、大人が笑顔で楽しく過ごしていることが子どもたちの良い育ちに繋がるよね！と主任の先生方と話すことでした。私たち職員も毎日たくさんの笑顔で子どもたちと過ごし、大人になることを楽しみにしてくれたらな･･と思います。

さて、2月といえば豆まき大会！さっそく子どもたちにとって試練の日がやってきますね。年長の男の子は、最近では鬼とお相撲をすることが恒例となっています。どうなることやら･･！そして、その後は、おゆうぎ会です。おゆうぎ会は、園生活の集大成の行事です。子どもたちの成長を皆様と一緒に楽しみたいと思います。たくさんのご協力をいただくことになりますが、どうぞよろしくお願い致します。　　森山

豆まき

困難の時に与えられるもの

大寒から立春にかけてはやはり冷えますね。急激な寒さが大いに身に染みます。ここを乗り越えると、暑さ寒さも彼岸までということで、もうしばらくの辛抱です。今年は川沿いの桜も、まだ一輪も咲いていないようです。

この欄を書いているのは土曜日なので、選挙の結果はまだ知る由もないところですが、やはりそこそこ気になります。特に、市政を導く責任者を決める市長選挙は、今まで以上に西之表市の方向性が見える重要なものです。どうしても、馬毛島の自衛隊基地建設の賛否に話題が向くことは仕方がないことでしょうが、今の日本には、より危機的な課題があるように思えて仕方がありません。日々の生活に直結する物価高騰は切実な問題ですが、政策によって緩和できる方法があるはずです。しかし、急激な人口減はかなり進んでいるので、手の打ちようがないくらい深刻です。物の本によると、直近五年間の出生数は毎年４.54％減少。このペースで減り続ければ、日本の人口は五〇年で半減、一〇〇年で八割減となってしまう計算です。そんな先のことは？と思われるでしょうが、本市の人手不足や学校の統廃合、複式化、出生数減の加速化を見れば、十年後はさらに厳しい状況にあることは否めません。また、バスや鉄道路線の利用者減による赤字化、インターネットやＳＮＳによる郵便離れ、上下水道等のインフラの老朽化等々、日本の行く末を地方は既に示しています。

私は、困難が予想される未来をただ悲観しているのでも、警鐘を鳴らしたいわけでもありません。そもそも、少子化対策の提言は、保育業界では二〇年以上前から提言し続けてきました。いわゆる「子育て支援策」としての様々な無償化等は展開されてきましたが、人口増に繋がる少子化対策の特効薬はないと理解しています。ここに至っては、量的成長である人口増より、イノベーションを活性化し、明治維新や戦後を生き抜いてきた日本人の知恵を結集するのみだと思います。五十年後を生きる子どもたちが、足るを知り、いつも平安の内にあることを幸せに思えるよう願っています。私たちは困難の時こそ、強められることを知っているからです。

おゆうぎ会が終わると、全部の演目をみんなで一緒に表現して楽しみます。年上の子どもたちの動きを、よく覚えていることにいつも驚かされます。この主体的で自由な活動を導くためにおゆうぎ会があると言っても過言ではないでしょう。目を輝かせて笑顔で踊っている姿の中に、確かな育みを感じさせてくれます。暦の上ではもう春。とは言っても、まだまだ寒い日が続いていますが、次第に日差しや肌に触れる風が、心地よくなってきています。冬ごもりしていた土の中の虫たちが這い出てくる啓蟄（けいちつ）と呼ばれる季節。心地良い春はもうそこまで来ています。　　園長

仲良くしょうね!!

年末年始を家庭で過ごし、久しぶりに友だちが集まって、園生活がスタートしたときの出来事です。先生や友だち同士で新年の挨拶をしていた時、５才児のＡちゃんが同じ年のＢくんに、「今年は仲良くしようね!!」と言っていたのです。Ａちゃんと Ｂくんは日頃からトラブルが多く、物の取り合いや、口論からの引っ掻きあいなど、結構激しいけんかをすることがありました。そのたびに大きな声で泣き、どうしてけんかになったのかと、保育者や友だちの仲介をよく受けていました。

『子どもの行動の意味とその対応』という本の中で、４才児頃から**自分を振り返り始める**という文章が載っていました。自分が出来ないことや、苦手なことを自覚するようになり、事態をありのまま認識したりする。また、周りの友だちと自分を比べるようになっていく。自分中心の世界から、少しずつ友だちの気持ちもくむことができるようになり、イメージを伝え合うことができるようになる。まさしく葛藤と向き合いながら乗り越える力をつけている時期である。

（「０歳児から５歳児　行動の意味とその対応」
今井和子 著　小学館）

この姿を目にした私は、Ａちゃんの成長を強く感じました。日頃の集団の遊びの中で、仲良く楽しく遊んで過ごすことも大事です。しかし、個と個の衝突や自分の意に沿わない事の経験から、自分を振り返り相手の気持ちを考えていく力がつき、それを自分の言葉で表現していくことは並大抵のことではありません。それをやってのけたのです。私自身、この場に居合わすことができたことを大変うれしく思い、保育の世界の醍醐味を感じたのでした。共に在ることを喜びと感じる世界でした。

最近、昼寝前の２歳児組で見られる光景です。保育者が部屋に布団を敷いて準備している間、担任と靴箱の前に並んでみんなでひなたぼっこをしています。ついこの間まで担任の声もなかなか届かず、みんなバラバラ走り回っていた２才児クラスでしたが、いつの間にかしおらしく集まって、「暖かいね～！」と、気持ちよさそうに共に過ごしている姿が面白く、ここにも子どもたちの一年の積み重ねの成果を感じうれしく思いました。　　副園長